

宮古市千徳地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 11 月)

1. はじめに

宮古市は、岩手県沿岸部の中央に位置し、東日本大震災では、死者・行方不明者が 567 名に上りました。

千徳地区は、宮古市中心部から西に位置し、閉伊川の上流と近内川に沿って集落や住宅地が広がっています。地区西部は農村地帯で、東部は丘陵地帯まで宅地開発が進んでおり、人口約 9,300 人、高齢化率約 28%、約 3,700 世帯が生活し、民生委員・児童委員 23 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しています。

震災では、津波による被害はありませんでしたが、地区の小学校は、地震で階段の壁が破損しました。

震災直後は、委員相互に連絡が取れないなか、安否確認、被害状況の把握、避難所の運営支援や救援物資の配布等それぞれの担当区内で主体的に活動しました。

2. 現状と課題

震災発生から数か月後、地区内の公園等 11 か所に応急仮設住宅が 232 戸建設されました。また、既存の県営・市営住宅、雇用促進住宅等 6 棟の空室にも被災者が入居しました。

当初は、被災者の転入による急激な世帯数増で委員の日常の活動が大変になると覚悟しましたが、応急仮設住宅に入居している被災世帯については、宮古市社会福祉協議会の生活支援相談員と定期的に情報交換を行ない、連携しながら見守り活動や相談等の対応を行ないました。

震災から 3 年半が経過し、自力で住宅を再建して応急仮設住宅から転居する世帯もありますが、多くの世帯は、災害公営住宅への入居を希望しています。当地区内には新改築 3 棟の災害公営住宅が建設予定で、そのうち、改築した 1 棟が完成し、入居も始まりましたが、新築の 2 棟は来年夏の完成予定です。

応急仮設住宅の多くは、2 年間の使用を目途に建てられており、老朽化で窓や扉の枠が歪み、滑らかに開閉できない部屋もあります。また、壁や天井の隙間が大きくなり、虫や隙間風が入り、夏は暑く、冬は寒く厳しいという環境の中、入居者は 4 回目の冬を迎えようとしています。

このように、生活の基盤となる住まいがいまだに決まらず、多くの被災者が先の生活の目途や人生設計が立てられない状況にあります。生活の再建には、相当の時間を要することが想定されますが、一日も早い復興を願っています。

3. 終わりに

当地区は、昨年 12 月の一斉改選で 6 名の新任委員を迎えました。これからも、新しい仲間と共に、住民の立場での福祉の担い手として、日常の活動とともに復興に向けた支援を継続していくこととしています。

最後に、震災後にいただいた全国の民生委員・児童委員の皆様からのご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。



4 度目の冬を迎える仮設住宅



建設に向けて動き出した災害公営住宅 建設現場